ニッスイ環境報告書
Environmental Report
2014

2014年9月発行

日本水産株式会社
環境オフィス

電話　03-6206-7077
FAX　03-6206-7080
〒105-8676
東京都港区西新橋1-3-1 西新橋スクエア
ホームページ http://www.nissui.co.jp/

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C022784
www.fsc.org

VEGETABLE OIL INK
本誌は環境へのやさしさに配慮して、FSC®認証紙と植物油インキを使用しています。

TOP MESSAGE

ニッスイグループは生まれ変わります。

[ごあいさつ]

創業103年目を迎えた本年8月、ニッスイは48年間本社を構えた大手町から西新橋に移転いたしました。ニッスイはこの移転を機に「生まれ変わる」ことを決意し、身近なことから見直しを行っております。

また本年度は、経営の基本方針に「水産資源の持続的利用と地球環境の保全に配慮し、水産物をはじめとした資源から、多様な価値を創造し続け、世界の人々のいきいきとした生活と希望ある未来に貢献します」を掲げた中期経営計画2014MVIPの最終年度にも当たります。

地球環境保全に関する具体的な目標、
1) グループ温室効果ガス排出量削減3年3%
2) 国内直営工場のゼロエミッション化
3) 容器包装廃棄物削減
に関してはそれぞれ一定の進捗があり、また各事業所におけるCO_2、水使用量、廃棄物の削減も着実に進めております。

ニッスイグループは、自然の恵みをいただき事業を営んでおりますが、特に海との繋がりが深く、今号では海に関する多様な取り組みについてご紹介しております。

主なものは、
1) 海の恵みである魚に含まれる機能性脂質*を抽出・精製し、人々の健康に貢献するファインケミカル事業
2) 世界水準の救命訓練で、海で働く人々の生命を守る日本サバイバルトレーニングセンター
3) 人類・地球の未来につながる海洋探索、深海調査
など、いずれもニッスイグループならではのユニークな取り組みであります。

また、海の生態系・生物多様性の保全を通じた食と環境への貢献も着実に進めております。

今後も他に類のないイノベーティブな活動を進め、ニッスイは生まれ変わった、とステークホルダーの皆さまにご理解・ご支持いただくとともに、皆さまとともに持続可能な社会の構築を進めるべく、努力を重ねてまいります。

＊機能性脂質…生体内で各臓器や赤血球などの細胞膜に取り込まれて存在し、生理機能を発揮する脂質。代表的なものとしてEPA、DHAなどがあり、医薬品や機能性食品に応用されている。

日本水産株式会社
代表取締役 社長執行役員
細見 典男

CONTENTS

会社概要
2-3 企業姿勢と環境保全の考え方
会社概要と業績

特集1 ～くらしとともに～ 食を通じた健康への貢献
健康なくらしに貢献するニッスイグループの活動を報告します。
4-5 ニッスイグループのファインケミカル事業
6 ニッスイ鹿島工場 ～ファインケミカル事業の生産拠点～
7 「SPORTS EPA」の提案

特集2 ～社会とともに～ 海に関わる社会への貢献
100年を超える蓄積を活かす、ニッスイグループならではの社会貢献。
8 世界水準の救命訓練 ～日本サバイバルトレーニングセンター～
9 人類の未来につながる海洋探査 ～日本海洋事業～

地球環境とともに
地球と海を守るためのニッスイグループの活動。
10 環境マネジメント
11 サプライチェーンを通じた環境負荷の低減
12 生物多様性の保全
13 CO_2の削減
14 廃棄物の削減とリサイクル
15 水使用量の削減

社会とともに
地域や社会とともに生きる、良き企業市民であり続けます。
16 地域社会との共生
17 第三者意見/編集後記

[編集方針]

編集方針	この報告書は、ステークホルダー（お取引先、従業員、株主、消費者、地域社会の皆さまに向けて、日本水産（株）の環境への取り組みについて報告するもので、今回で10回目の発行となりました。環境保全活動の数値データについては、日本水産（株）個別に加え、国内の一部のグループ会社も含んで掲載し、内容の充実を図りました。
報告対象期間	環境保全活動の数値データについては、2013年度（2013年4月～2014年3月）のデータを掲載しています。環境マネジメントシステムや具体的な取り組み事例などについては、2013年度の活動を中心に2014年7月までの活動を掲載しています。
報告対象組織	日本水産（株）個別と国内の連結子会社・一部のグループ会社を対象としています。環境保全活動の数値データは、日本水産（株）の事業所と国内の連結子会社26社のデータを合算しています。
参考としたガイドライン	環境省「環境報告ガイドライン2012」
作成部署・連絡先	日本水産（株）環境オフィス　〒105-8676 東京都港区西新橋1-3-1 西新橋スクエア Tel:03-6206-7077 Fax:03-6206-7080

企業姿勢と環境保全の考え方

水産資源の持続的利用と地球環境の保全に配慮し、世界の人々のくらしと未来に貢献します。

ニッスイは、100年以上にわたって受け継がれた創業の理念、および経営の基本方針のもと、地球から、海から、おいしさと楽しさ、健康と美をお届けするメーカーを目指します。環境憲章で掲げた考え方を基本に、地球や海に感謝の心で接しながら、環境保全活動に取り組みます。

創業の理念

水道水のように、新鮮な水産物を安定して供給すること。ニッスイの原点です。

水の水道におけるは、
水産物の生産配給における理想である。

海洋資源は世界至る処でこれを求め、できるだけ新鮮な状態で貯え、
世界各市場にいわば水道の鉄管を引き、需要に応じて市価の調節を図りつつこれを配給する。

経営の基本方針（中期経営計画2014MVIPより）

地球環境の保全と水産資源を通じた価値創造を定めた、ニッスイの経営の支柱となる考え方です。

私たちは、水産資源の持続的利用と地球環境の保全に配慮し、
水産物をはじめとした資源から、多様な価値を創造し続け、
世界の人々のいきいきとした生活と希望ある未来に貢献します。

環境憲章

ニッスイは、日々の業務を通じて環境憲章の実践を目指します。
環境マネジメントの指針となる行動方針の第1項には、生物多様性の保全を加えました。

環境理念

自然の恵みを受けて仕事をする当社においては、資源を大切にし、地球や海に感謝の心を持って接することを企業姿勢の基本としています。
私たちは、地球環境と調和・共生できるような、グローバルな事業活動を展開し、持続可能な社会の構築に、継続的に取組みます。

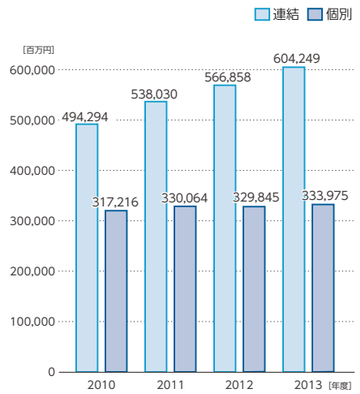
［ 行動方針 ］

1. 自然環境及び生物多様性の保全と、資源の持続的利用に配慮した活動を推進します。
2. 省エネ、省資源、廃棄物の削減、容器包装の減量化、グリーン購入等による環境負荷低減活動を通じ、循環型社会形成に向け、継続的に努力します。
3. 環境マネジメントの仕組みを構築し、その効果的な運用を目指します。また、環境監査を実施し、環境関連の法規制等の遵守を徹底します。
4. 環境教育を通じて、社員一人一人の環境意識の向上を図ります。
5. 社会に対して、環境コミュニケーション活動を行うとともに、地域社会との環境に配慮した共生を重視して行きます。
6. この環境憲章は、グループ各社においても共有化するように努めます。

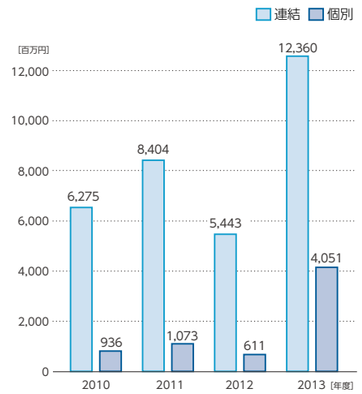
会社概要（2014年8月末現在）

商　　号	日本水産株式会社
本社所在地	〒105-8676　東京都港区西新橋1-3-1 西新橋スクエア
創　　業	1911（明治44）年
設　　立	1943（昭和18）年
資 本 金	23,729百万円
主な事業	水産事業：水産物（生鮮魚・冷凍魚・油脂（魚油）・ミール（飼料））の漁獲・養殖・買付・加工・販売
	食品事業：冷凍食品、缶詰・びん詰、その他の加工品（フィッシュソーセージ・練り製品・チルド食品・調味料）の開発・製造・販売
	ファインケミカル事業：一般医薬品、医薬原料、健康食品の製造・販売
	物流事業：冷凍・冷蔵保管、冷凍・冷蔵貨物の運搬

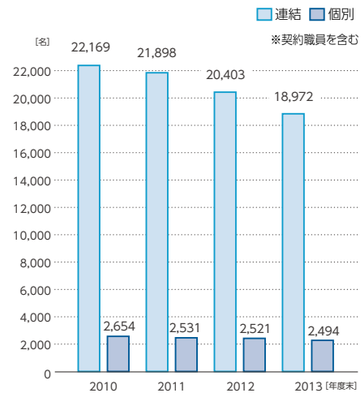
売上高（2010−2013年度／連結・個別）



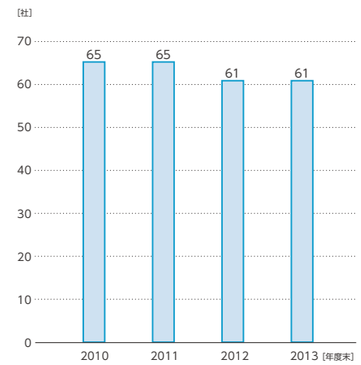
経常利益（2010−2013年度／連結・個別）



従業員数（2010−2013年度（3月末現在）／連結・個別）



連結子会社数（2010−2013年度（3月末現在））



特集1

～くらしとともに～

食を通じた健康への貢献

地球から、海から、おいしさと楽しさ、
健康と美をお届けするメーカーを目指して。
ニッスイグループは水産資源から健康に役立つ成分を抽出し、
健康食品などの原料として提供しています。
食を通して健康なくらしに貢献する、
ニッスイグループの活動をご報告します。

「魚油」から採れる海の恵みを、健康の維持管理に活かします。

貴重な海からの恵みである魚を、余すところなく使いきりたい。地球や海への感謝の気持ちから、ニッスイグループは、魚から抽出した「魚油」を活用するファインケミカル事業を推進しています。「魚油」には、血液・血管の健康維持に重要であるEPA※や、乳幼児の脳や神経の発達に必要なDHA※などの機能性脂質が豊富に含まれており、医薬品や健康食品の原料となります。

※EPA:エイコサペンタエン酸　※DHA:ドコサヘキサエン酸

自然からの恵みを余すことなく活用する、ニッスイグループのファインケミカル事業。

世界に先駆け、高純度のEPAの抽出・精製に成功。

EPAは、いわしやさばなど青魚に多く含まれる成分です。ニッスイは、健康に役立つEPAの効果にいち早く着目し、1970年代から研究をスタート。10年以上の歳月を経て、1980年代にいわしの「魚油」から高純度のEPAを製造する技術を世界で初めて開発しました。その他、同じく「魚油」に含まれるDHAや、肌の保湿性にすぐれたオレンジラフィー油など、さまざまな価値ある成分の抽出と活用に成功しています。

医薬品原料から化粧品まで。さまざまな形で、海の元気をお届けしています。

EPAやDHAなどの成分は、世界中に輸出され、医薬品や健康食品、乳児用粉ミルクや栄養剤、化粧品などさまざまな商品の原料として多くの人々の健康で快適なくらしに役立っています。ニッスイグループのファインケミカル事業は、健康に役立つ「魚油」の効能をさらに研究・開発する一方、「海の元気倶楽部」を通じての一般消費者への製品販売など、医と食を通して健康に貢献していきます。

ニッスイ鹿島工場

魚油の100%活用を目指す、ファインケミカル事業の生産拠点。

100%の有効利用。環境負荷物質の低減にも貢献します。

鹿島工場では、EPAやDHAなどを精製した後の「魚油」もムダにはしません。残った揮発性成分は、熱媒ボイラーの燃料として使用されます。これにより、「魚油」を使いきりカーボンニュートラルとなるばかりか、高温の燃焼によりダイオキシンなど環境汚染物質も分解します。鹿島工場は環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001を認証取得しており、廃棄物のゼロエミッションも達成。さまざまな側面から地球環境の保全に貢献しています。

精製した後の「魚油」を燃料として使用できる熱媒ボイラー

鹿島工場外観

海の恵みを余すところなく使いきる、最先端の生産フロー。

茨城県神栖市にあるニッスイ鹿島工場は、「魚油」から健康に役立つ成分を濃縮・精製するファインケミカル事業の拠点です。日本および世界各地から調達された「魚油」は、「短行程蒸留（SPD）」というプロセスにかけられ、EPAやDHA、コレステロールなどの機能性脂質が抽出されます。この工程を経て高度精製され、医薬品や特定保健用食品、乳児用ミルクなどの原料としてお届けされるのです。

地域への貢献活動に参画する、良き企業市民であり続けます。

鹿島工場ではさらに、鹿島臨海工業地帯の各社と連携して、従業員とその家族による海岸や港の清掃活動、花と親しむ「花草の植栽活動」、「銚子マラソン」といったスポーツイベントへの参画など、地域への貢献活動を積極的に推進しています。鹿島工場は、地域とともに歩む良き企業市民でありたいと願っています。

■ 鹿島工場の取り組み

植栽活動

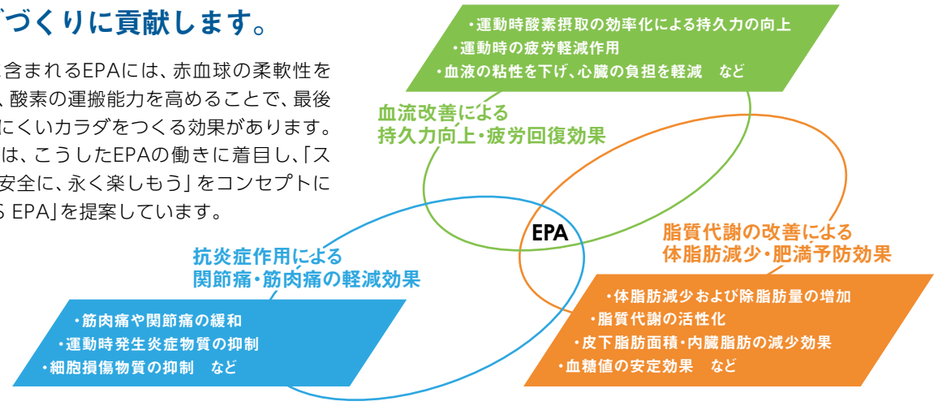
海岸清掃

スポーツを安全に、永く楽しめる、「SPORTS EPA」の提案。

“ラスト5分を走りきる”カラダづくりに貢献します。

「魚油」に含まれるEPAには、赤血球の柔軟性を向上させ、酸素の運搬能力を高めることで、最後までバテにくいカラダをつくる効果があります。ニッスイは、こうしたEPAの働きに着目し、「スポーツを安全に、永く楽しもう」をコンセプトに「SPORTS EPA」を提案しています。

■ EPAのスポーツの悩みを解決する効果



■ EPAスポーツサプリメントシリーズ

スポーツをするすべての方におすすめしたいEPAをはじめ、健康に役立つこだわり素材やビタミンB群を配合したスポーツサプリメントです。

スポーツにも役立つ、EPAのカラダ改善効果。

ニッスイでは、順天堂大学の駅伝チームにご協力いただき、トレーニングに対するEPAの効果を検証しました。その結果、1万m走の場合、EPAを4ヶ月にわたって摂取し続けたランナーは51秒も記録を短縮したのです。この取り組みをはじめ、さまざまな研究からスポーツに貢献するEPAのさまざまなカラダ改善効果がわかりました。

展示会やWEBサイトで情報を提供。EPAのさらなる可能性を追求します。

スポーツにもっとEPAを活用していただくため、ニッスイは2013年、「日本マスターズ水泳選手権大会」「SPORTEC2013」などに協賛し、無料セミナーなどで「SPORTS EPA」を提案しました。また、WEBサイト「SPORTS EPA スペシャルサイト」を開設し、スポーツを永く楽しむためのカラダづくりなどについての情報を発信しています。EPAやDHAなどを活用した健康への貢献のために、ニッスイグループは新たなチャレンジと提案を続けていきます。

SPORTS EPA スペシャルサイト ……▶ http://sportsepa.com/

特集2

～社会とともに～

海に関わる社会への貢献

かつてニッスイは、世界の海を舞台に遠洋漁業を展開していました。200海里時代の到来により この事業から撤退した後も、洋上での豊かな経験とスキルを持つ人材が残りました。 鍛え抜かれた漁船員とその技術を活かし、日本の海洋事業に貢献するために設立されたのが、 ニッスイマリン工業(株)と日本海洋事業(株)です。両社とも環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001を取得し、 地球環境に配慮しながら、海で働く人々の安全や海洋探査に関わる事業を推進しています。

日本サバイバルトレーニングセンター

世界水準の救命訓練で、海で働く人々の生命を守。

日本サバイバルトレーニングセンター外観▶

洋上サバイバルの国際標準、OPITO※認証に即した実践的な訓練メニュー。

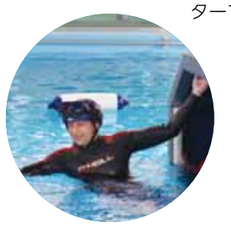
NSTCでは、洋上サバイバル訓練の国際標準OPITO認証に則ったトレーニング・メニューが組まれています。たとえば、施設内に設けられた訓練用プールを使った、水没するヘリコプターからの脱出訓練。救命艇や救命いかだの操作訓練や、洋上での消火訓練。多彩で実践的なメニューによって、洋上で働く人々の生命を守るスキルとマインドが身についていきます。

※OPITO:海で働く人々のサバイバル・スキルを向上させる訓練や、安全な作業方法の基準を設けるために、イギリスの石油開発業界が設立した組織。その認証は、洋上サバイバル訓練の国際標準となっています。

“海の男たち”の豊富な経験から生まれた、日本初の総合サバイバルトレーニングセンター。

未来へのカギは海にある。その想いを胸に、ニッスイマリン工業は多彩な海洋事業を展開しています。海洋土木事業や海洋資源の開発、船員の派遣、船舶エンジニアリングなど、洋上に求められるあらゆる技術やスキルが事業領域です。日本サバイバルトレーニングセンター(NSTC)は、そんなニッスイマリン工業が海で働く人々の安全を守るために2011年に開設した、日本初の総合サバイバルトレーニングセンターです。

▲ヘリ乗員向け水中脱出訓練



▲海外のトレーニング施設などで訓練を受けたインストラクターたち

◀ヘリ脱出訓練では、4名の生徒に2名のインストラクターがつきます

多彩な業種の訓練生たち。洋上サバイバル訓練は、海の安全へのパスポートです。

世界では、海洋資源開発事業に従事する場合、OPITO認証訓練施設でのトレーニング受講を求められるケースが一般的です。そのため、NSTCには商社、プラントエンジニア、船員、資源開発会社など多様な業種の人材が訪れ、洋上サバイバルのための世界標準の訓練に真剣に取り組んでいます。NSTCのサバイバル・トレーニングは、世界の海で安全に活躍するためのパスポートなのです。

商　　号	ニッスイマリン工業株式会社
従業員数	301名(2014年3月31日現在)
事業内容	海洋土木事業、船員派遣事業、内航船舶賃渡業、海洋資源開発関連事業、船舶運航管理業、海/陸エンジニアリング事業、船舶資機材手配/輸出、石油類販売、船舶コンサルタント、教育訓練事業等
U R L	http://www.nissui-marine.co.jp/

海を探り、地球を知り、未来に活かすために。

◀支援母船「よこすか」

地球表面の72%を占める海。地球規模の気候変動や地震・火山活動を予測し、対応するためには、海洋のメカニズムや深海底の動きを知ることが不可欠です。こうした海や地球の謎を解き明かすため、独立行政法人 海洋研究開発機構(JAMSTEC)は、豊富な船舶や設備・機器を用いて海洋観測・研究を続けています。こうしたJAMSTECが所有する海洋調査船や有人潜水調査船、無人探査機などの運航・管理、機器運用など委託を受け行うのが、日本海洋事業。調査船の運航、深海調査、調査観測の3つの技術が連携した総合力は、日本海洋事業ならではの特長です。

▼有人潜水調査船「しんかい6500」
世界トップクラスの調査性能を誇る。

日本海洋事業

人類の未来につながる海洋探査。

▲無人探査機「かいこう7000II」

調査船運航

▲海洋調査船「なつしま」その他4隻を運航

深海調査

▲深海巡航探査機「うらしま」(自律型の深海探査ロボット)

日本海洋事業の技術

調査観測

◀観測装置を整備する観測技術員

謎に満ちた深海と地球の内部に挑む、調査船・探査機の運航。

1980年の設立以来、日本海洋事業はJAMSTECからの委託を受け、海洋調査船「なつしま」をはじめ、「かいよう」「よこすか」「かいれい」「新青丸」、有人潜水調査船「しんかい6500」、無人探査機「かいこう7000II」など、数々の調査船・探査機を運航しています。地球環境の変動の要因を探る海洋観測、深海の未知の生態系の解明、東日本大震災の震源域の調査、日本海溝への海底地震計の設置、福島沖の放射線量調査などに取り組み、成果をあげています。

DONET計画 ～南海トラフ巨大地震に備える、地震・津波監視システム。

将来、発生が予想される南海トラフ巨大地震に備えて、日本海洋事業はJAMSTECの委託を受け、紀伊半島沖の海底に地震・津波観測監視システムDONETを敷設する支援作業を行っています。地震計と津波計をつなぐことで、地震が陸上に到達する前に警報を出したり、津波の高さや到達時間を正確に把握することが可能です。日本海洋事業は海に関わる総合力で、社会に、人類に貢献していきます。

商　　号	日本海洋事業株式会社
従業員数	325名(2014年3月31日現在)
事業内容	独立行政法人 海洋研究開発機構(JAMSTEC)の海洋調査船等の運航・管理、同有人潜水調査船、無人探査機の運用、各種調査研究支援業務
U R L	http://www.nmeweb.jp/

写真協力・提供／JAMSTEC

地球環境とともに

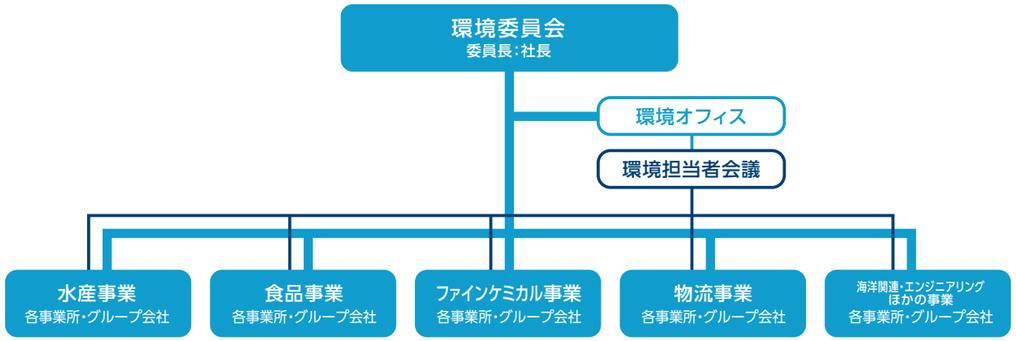
環境マネジメント

全社的な数値目標に基づき、事業活動そのものを通して環境保全に取り組みます。

ニッスイは、環境憲章の行動方針に基づき全社的な環境マネジメントシステムを構築しています。事業活動のあらゆる局面で発生する環境負荷を最低限にとどめ、自然環境および生物多様性の保全と資源の持続的利用に配慮した活動を推進。CO_2排出量削減、廃棄物削減、水使用量の削減の3つの項目で数値目標を定め、事業活動そのものを通して持続可能な社会の構築に取り組んでいます。

環境マネジメントの体制

ニッスイは環境委員会を設置して、グループ全体の環境保全への取り組みを統括・推進しています。また、各事業分野の事業所およびグループ会社ごとに環境マネジメントシステムを構築し、目標達成に向けて取り組んでいます。



環境委員会
- グループ全体の環境への取り組みに関する基本的事項の協議・決定
- 環境保全活動の推進、進捗管理

＊2013年度は4回開催

環境オフィス
- グループ全体の環境への取り組みに関する施策の企画・提案
- 各事業分野の環境負荷削減状況の進捗確認、情報発信
- 好事例の横展開

環境担当者会議
- 各事業分野の活動状況の進捗確認、情報交換
- 好事例の横展開

＊2013年度は2回開催

［ 2013年度 目標 ］

CO_2排出量削減目標	廃棄物削減目標	水使用量削減目標
2011年度実績を基準に3年間で3%削減	2012年度実績比1.9%削減	2012年度実績比2.4%削減

ISO14001の認証取得

ニッスイでは、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証取得を推進しています。2014年7月末現在、ISO14001の認証を取得している事業所は、直営事業所および国内連結子会社・グループ会社を合わせて63事業所です。

環境リスク管理

2013年度は、ニッスイの事業所において、環境に重大な影響を与える事故・トラブルの発生はありませんでした。また、前年度に引き続いて、大気、水質、臭気、騒音、振動に関わる法令等の基準をクリアしています。食品リサイクル法、省エネ法、地球温暖化対策推進法についても遵守しています。

環境教育・啓発

環境教育では、2012年度より、従来の新入社員教育や環境担当者会議での教育に加え、地球環境の現状と持続可能な社会の構築へのニッスイのステップを知る生物多様性に関する環境教育を実施しています。2013年度は、20事業所436名が受講しました。

地球環境とともに

サプライチェーンを通じた環境負荷の低減

世界の海から毎日の食卓まで。サプライチェーンを通じて、環境負荷の低減に努めています。

原料の調達から、製造・加工、物流、そしてお客様の食卓まで。ニッスイは、事業のあらゆる局面で発生する資源やエネルギーの使用状況、廃棄物などの排出状況を数値で把握し、サプライチェーンを通じた環境負荷の低減に努めています。

2013年度の資源やエネルギーの流れ

原料・素材

世界中で原材料を調達するとともに、水産資源と地球環境を大切にしています。また、資材・包装材・梱包材の使用削減、グリーン調達にも努めています。

調達・加工

水産資源の持続的利用に配慮しながら、おいしさと品質にこだわった水産食材や食品、健康に貢献する機能性素材など、多様な価値を創造しています。

- **水産事業**：安全・安心でおいしい水産食材（鮮魚・冷凍魚）を提供します。
- **食品事業**：食生活の変化への対応やシニア向け食材の提案など新たな価値を創造します。
- **ファインケミカル事業**：水産資源を活かし、「EPA」や「DHA」などの機能性素材を生み出しています。

物流・その他

物流の効率化と環境配慮を両立させたバリューネットワークを構築。さらに、これまで培った技術と人材をベースに海や食に関わる幅広い事業を展開します。

- **物流事業**：冷蔵倉庫事業、総合的な物流事業を受託する3PL事業、海上国際物流を展開。
- **海洋関連・エンジニアリング ほかの事業**：船舶の建造や運航、食品加工分野の設備・機材の販売、海洋研究支援業務など。

2013年度

INPUT

水資源
市水・井戸水・工業用水：3,552千m³

エネルギー
購入電力：205,519千kWh
A重油：6,309kL
灯油：521kL
軽油：2,597kL
都市ガス：14,347千m³
LPG：2,847t

OUTPUT

廃棄物
動植物性残渣、廃油、汚泥など
発生量：31,710t
リサイクル量：30,270t
（リサイクル率約95.5%）
処理・処分量：1,426t

水系・下水への排出
排水・BODなど

大気への排出
CO_2など CO_2：180,950t-CO_2

注）INPUT、OUTPUTの数値データは、報告対象組織に示した日本水産（株）個別の事業所と国内の連結子会社・一部のグループ会社のデータです。

商品・サービス

おいしさとともに、食べやすさや、安全・安心に徹底的にこだわった商品をお届けします。

〈水産加工品〉

〈練り製品〉

〈フィッシュソーセージ・ハム〉

〈冷凍食品〉

〈缶詰・びん詰〉

〈健康食品〉

お客様

お客様のもとで消費され、廃棄物となる商品の容器包装の削減にも取り組んでいます。

地球環境とともに

生物多様性の保全

海の生態系を守り、水産資源の持続的な活用を目指します。

水産物という海からの恵みを事業基盤とするニッスイグループにとって、生物多様性の保全は重要な使命の一つです。ニッスイグループは、環境憲章の行動方針に生物多様性の保全を明記し、海の生態系と調和する水産資源の持続可能な活用を目指しています。

生態系と調和する「銀ざけ」「ぶり」の養殖事業。

ニッスイグループでは、海の生態系への影響を抑える養殖技術の高度化を図っています。鳥取県の境港市では、2013年12月からグループ企業による銀ざけの養殖事業が本格操業。稚魚から一貫して育てられる銀ざけは、「境港サーモン」のブランド名で販売され、水産資源供給の新たな拠点となっています。
ニッスイグループの黒瀬水産（株）では、日本初のぶりの「完全養殖」を事業化。飼育した親魚より採取した卵から生まれた稚魚（人工種苗）を育て、成魚としてから再び卵を採取します。天然の稚魚を採捕する従来の養殖法と異なり、生態系からは独立した魚の育成を可能にしています。
また、水域環境への影響を抑えるため、生餌のかわりに配合飼料を開発するなど、ニッスイグループは養殖技術のイノベーションを推進していきます。

まぐろ配合飼料の生産ライン

持続可能な養殖業であることを証明するASC認証への取り組み。

ASC認証とは、WWF（世界自然保護基金）などが2010年に立ち上げた、持続可能な養殖業であることを証明する第三者認証です。養殖による環境への影響を測定する基準づくりなどを進める円卓会議を実施しており、ぶりのセッションでは黒瀬水産やニッスイが参画。厳しい認証基準をクリアし、日本で初めてのASC認証の取得を目指しています。

受精卵からぶりの人工種苗を生産している
黒瀬水産 顕娃種苗センター

水産資源の未来をみつめる研究活動を支援しています。

ニッスイグループはまた、一般社団法人 水産資源・海域環境保全研究会（CoFRaME）の研究活動を支援しています。CoFRaMEでは、持続可能な水産資源の利用を可能にするための幅広い研究活動が行われています。その成果は学会や学術論文などを通じて発信され、水産資源の保護政策にも影響を及ぼすことが期待されます。ニッスイグループは、科学的な調査に基づきながら、グローバルな視点で生物多様性を守り、水産資源の持続的な利用を実現していきます。

地球環境とともに

CO_2の削減

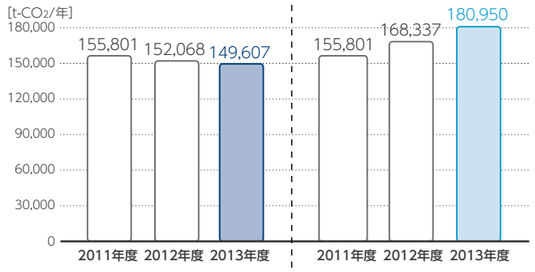
従業員が知恵をしぼった省エネ・節電の取り組みをはじめ、多様な施策でCO_2排出量の計画的な削減を進めます。

地球温暖化の原因の一つとされるCO_2排出量の削減に向けて、グループが一体となった計画的な取り組みを進めています。従業員が主体的に参画する省エネルギーや節電の取り組み、CO_2排出係数の小さいエネルギーへの転換、再生可能エネルギーの利用などを通じて、グループのCO_2排出量の削減を推進。
2011年度実績を基準に、3年間で3%の削減が目標です。

CO_2排出量

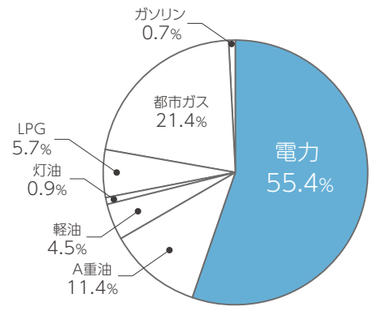
2013年度、国内グループ会社のCO_2排出量は180,950tとなり、前年度比約7.5%の増加となりました。これは、電気事業者の電力使用1kWhあたりのCO_2排出係数が増加したためです。2011年度を基準（CO_2排出係数を固定）にした時の排出量は149,607tで、2011年度比約4.0%の削減となり、目標を達成しました。これは、各事業所における節電や省エネルギーの努力、一層のムダの排除やLED照明の導入促進などの取り組みが行われた結果です。2014年度もこれらの取り組みを継続してまいります。
使用しているエネルギー別のCO_2排出内訳は、電力が55.4%（前年度56.8%）と2分の1以上を占め、続いて都市ガスが21.4%（前年度17.8%）、A重油が11.4%（前年度13.0%）などでした。

［CO_2排出量］



※左のグラフは、2011年度の電気事業者のCO_2排出係数を使用して算出。
右のグラフは、各年度の電気事業者のCO_2排出係数を使用して算出。

［2013年度 CO_2排出量品目別発生割合］



CO_2排出量削減の取り組み

都市ガスの使用量を削減する取り組み

都市ガスを主に使用する直営5工場を回線でつないで会議を行い、削減取り組みの好事例について各事業所で有効利用を図りました。これにより、配管や機器への断熱材の追加設置、蒸気漏れの定期点検、ボイラーの省エネ運転などで効果を上げ、都市ガス使用量の削減につなげています。

青色のバルブに取り付けた断熱ジャケット

スケール*除去による電力量の削減

冷凍機や空調機に設置されている屋外機で使用する水には、ミネラル分が含まれており、スケールが配管内に付着します。スケールが付着すると、冷凍機に負荷がかかり、電力を余分に消費します。そこで各事業所では、定期点検・清掃を実施するとともに、スケール低減装置を設置してスケール付着を予防し、冷凍機への負荷増加を抑制しています。

冷凍機の屋外機

*スケール…水に含まれるミネラル分が固形化したもの

地球環境とともに

廃棄物の削減とリサイクル

廃棄物の削減と再資源化を目指し、事業活動のあらゆる局面で3R*を推進します。

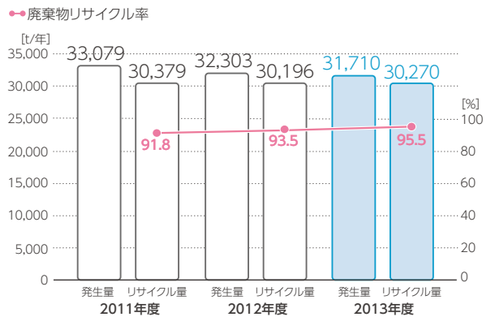
限りある資源を最大限有効に活用するため、事業活動を通じて発生する廃棄物の3R（スリーアール）に努めています。国内の直営工場はすべてゼロエミッションを目指し、廃棄物の削減と再資源化を推進。また、容器包装廃棄物は2014年度までに原単位10%削減（2011年度比）を目標に、廃棄物の削減とリサイクルに継続的に取り組んでいます。

*3R:2000年に循環型社会形成基本法において導入された、廃棄物やゴミを減らすためのキーワード。Reduce（リデュース）:減らす、Reuse（リユース）:繰り返し使う、Recycle（リサイクル）:再資源化する、の頭文字をとったものです。

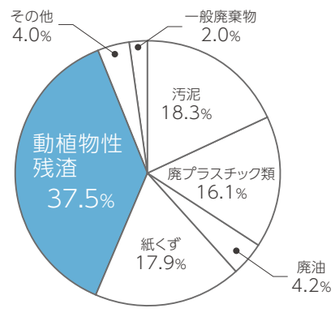
廃棄物発生量とリサイクル量

ニッスイグループは、2012年度実績比1.9%削減を目標に廃棄物削減に取り組みました。その結果、2013年度の廃棄物発生量は31,710tで、前年度に比べ約1.8%の削減となり、目標に今一歩届きませんでした。不良品発生率の“見える化”や生産ラインの歩留まり向上などに継続的に取り組んでいきます。国内直営工場のゼロエミッションについては、9工場中4工場でゼロエミッションを達成しました。
また、2013年度のリサイクル量は30,270tでした。リサイクル率は約95.5%で、2012年度から着実に向上することができました。

〔廃棄物発生量とリサイクル量・リサイクル率〕



〔2013年度 廃棄物品目別発生割合〕



廃棄物削減の取り組み

小さな工夫の積み重ねで廃棄物4%削減に挑む〈（株）北九州ニッスイ〉

北九州ニッスイでは、廃棄物4%削減を目標にムダを取り除く工夫を、従業員参加の小集団活動なども取り入れて推進しています。たとえば製品の落下を防ぐため、ベルトコンベアに設置する落下防止ガイドを補強したり、大学いもラインの火力の調整による不適合品の削減など、目標達成に向けさまざまな知恵をこらしています。また、包装材のダウンサイズや、夏場のピークカットによる電力対策の優秀者を表彰する環境・省エネキャンペーンを計画するなど、工場内のすべての「もったいない」の削減を図っています。

製品落下防止のガイド

容器包装廃棄物削減の取り組み

家庭用冷凍食品、加工食品などでプラスチックトレー、フィルムの薄肉化の取り組みを継続し、2013年度は約37tの削減ができました。原単位では前年度比0.5%削減できましたが、2011年度比では3.8%増加しました。今後も小型化・軽量化などの取り組みを進めていきます。

容器包装の削減事例
えびプリプリフライ

地球環境とともに

水使用量の削減

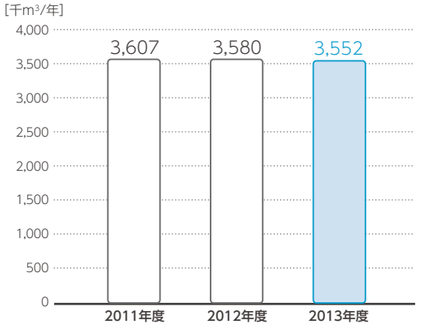
限りある貴重な水資源を、大切に守り続けます。

地球上の水で、くらしに利用できる淡水はわずか0.8%にすぎません。事業の基盤となる大切な水資源を守るため、ニッスイグループは工場での節水や水の再利用などによる水使用量の削減を計画的に推進しています。

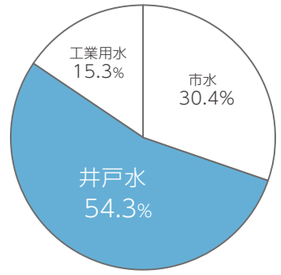
水使用量

ニッスイグループは、2012年度実績比2.4%削減を目標に水使用量削減に取り組みました。その結果、2013年度の水使用量は約3,552千㎥で、前年度比で約0.8%削減とほぼ横ばいでした。今後も、清掃時のマニュアル化、使用量の見える化、従業員参加型の小集団活動など、節水に向けた工夫に継続して取り組んでまいります。なお水の供給源の内訳は、井戸水が約54%、市水が約30%、工業用水が約15%でした。

［水使用量］



［2013年度 水使用量品目別発生割合］



水とエネルギーの有効活用で「もったいない大賞」を受賞〈日豊食品工業（株）城南工場〉

農林水産省の外郭団体であるバイオマス資源総合利用推進協議会が主催した第1回「食品産業もったいない大賞」で、日豊食品工業 城南工場が審査委員会委員長賞を受賞しました。
「食品産業もったいない大賞」とは、食品産業の持続可能な発展に向け、地球温暖化・省エネルギー対策で顕著な実績を挙げている企業などを広く表彰するもの。日豊食品工業 城南工場では、夏場の製造室温度の上昇低減や、冷却水の流量最適化に向けた節水活動など、15項目において従業員主体の改善活動を積み重ねており、中小企業が参考にできる取り組みとして評価されました。

水量調整バルブ

工場の敷地に、水の清らかさを示すビオトープを設置

ニッスイ安城工場では、排水路を再整備する際にビオトープ*を設置しました。新たに設けた池に、魚や水棲昆虫、水草などの生態系を再現しました。水の清らかさを示す生物モニターとしての役割のほか、地域の環境学習の場としても活用されています。きれいな水を守りながら地域社会に貢献する、ニッスイグループの取り組みの一つです。

*ビオトープ
その土地に昔からいた魚や昆虫、植物などの多様な生物が、自然の生態系をつくっている空間のことです。最近では企業の敷地内などにビオトープを設ける活動が盛んであり、子どもの環境学習の場として大きな役割を果たしています。

社会とともに
地域社会との共生

地域社会とともに生きる企業として、ニッスイグループだからこそできる活動を続けます。

ニッスイグループは、水産資源から多様な価値を創造する企業として、「海とさかな」や「地域貢献」に関わる活動を通じて、社会や地域との関わりを深めます。良き企業市民として、社会とともに生きる活動を続けていきます。

将来を担う子どもたちに、海とさかなへの関心を深めてもらいます。

「海とさかな」自由研究・作品コンクール

ニッスイは朝日新聞社、朝日学生新聞社主催の「海とさかな」自由研究・作品コンクール（以下コンクール）に協賛し、今年で第33回を迎えます。日本人のさかな離れなどが進んでいる中、将来を担う小学生に海とさかなへの関心や理解を深めてもらうことがコンクールの目的です。「海とさかなとわたしたち」というテーマで自ら体験したことや学んだことを、「自由研究」「観察図」「絵画」「絵本」「作文」「工作」などの作品にしてご応募いただいています。

第32回「海とさかな」自由研究・作品コンクール 表彰式

地域の文化施設と連携した社会貢献を図っています。

ニッスイパイオニア館

ニッスイパイオニア館は、2011年8月、ニッスイ創業100周年を記念して、北九州市戸畑区のニッスイ戸畑ビルに開設されました。「水産業研究者などへの情報提供」「事業活動関連情報の発信」「地域他施設と連携した地域貢献」「教育委員会や学校と協力した教育支援」などを目的とした情報発信を続けています。
ニッスイパイオニア館は、北九州市の他の文化施設や産業遺産と連携し、地元の生涯学習ツアーなどの拠点の一つとして親しまれています。また、スポーツ大会や水中ロボットコンテストなど地元のイベントにも協賛しており、地域社会になくてはならない施設として貢献しています。

トロール船模型などが展示されている歴史展示室

身近なフィールド体験を通じて、従業員の環境意識を高めます。

環境意識向上活動

ニッスイグループでは、「従業員一人ひとりが環境に配慮した行動がとれるよう、環境意識向上の取り組みを推進する」をミッションに、2009年度より環境意識向上活動をスタート。地域社会や生活に密着した活動に取り組んでいます。
2013年度は、多摩川をフィールドとしたニッスイ社員とその家族による河川保全体験講座、ニッスイグループの75事業所から1,177名が参加して事業所のまわりなどを清掃した第6回クリーンナップ作戦、ニッスイ東京イノベーションセンターの隣地である宇津貫緑地をフィールドとした里山保全体験講座など、身近な体験を通して環境意識を高める取り組みを継続的に行っています。

多摩川稲田堤（神奈川県川崎市）で実施した河川保全体験講座

第三者意見

「ニッスイ環境報告書2014」を読んで

国立大学法人
東京海洋大学大学院
教授 刑部（おさかべ） 真弘（まさひろ） 氏

専門はエネルギー環境工学。2002年スマート研究会を立ち上げ、新しいエネルギー構想を発表した。震災後の東北に過疎高齢化に対応した仕組みを提案している。文化庁芸術祭大賞等を受賞したNHK番組「メルトダウン」シリーズの事故分析にも協力。

本報告書の冒頭に、「ニッスイグループは生まれ変わります」と書かれており、改革に関する強い決意を期待させます。さらにトップのメッセージからは、経営の基本方針である「水産資源の持続的利用と地球環境の保全に配慮し、水産物をはじめとした資源から、多様な価値を創造し続け、世界の人々のいきいきとした生活と希望ある未来に貢献します」を推し進めようという力強い決意が伝わってきます。続くページでは、温室効果ガスを3年で3％削減、直営工場のゼロエミッション化や容器包装廃棄物削減など、具体的な環境保全活動が明確に紹介されています。

さらに特集では、海に関する多様な取り組みについて紹介しています。主なものは、機能性脂質に関する事業、海で働く人々の生命を守る日本サバイバルトレーニングセンターの活動、そして海洋探索および深海調査などの紹介です。食を通じた健康への貢献を第一としながらも、海洋探査等にも協力しており、海を基盤とした企業の社会貢献が強く示されています。

著名なサイエンス誌(Worm et al., 2006)において、2048年には水産資源が枯渇するというショッキングなレポートが報告され、最近も国連機関等が2030年には世界の食用魚の2/3近くは養殖になると報告しています。また、この40年で日本人の肉摂取量は4倍になり、様々な影響が懸念されています。このような状況の中で、海洋環境保全や安全そして探査に貢献しながらも、海の恵みである食を安定して供給し、日本および世界の人々の健康に貢献していることを示す内容でした。一方で地域社会との共生のページにある社会貢献活動にみられるニッスイらしい取り組みは、今後さらにＣＳＲを通じた社会への貢献へ発展されることを期待します。

第三者意見を受けて

刑部先生には貴重なご意見をいただきありがとうございました。先生にはその改革に関する決意と、環境保全をはじめとした行動について高い評価をいただきました。今後も水産資源の持続的利用と地球環境の保全に取り組んでまいります。また、ご指摘いただいた社会貢献活動は、ＣＳＲを通じた活動へ発展させてまいります。今後ともご指導賜りますよう、お願い申し上げます。

日本水産株式会社　取締役　執行役員　井原直人

編集後記

「ニッスイ環境報告書２０１４」をお読みいただき、ありがとうございました。ステークホルダーの皆さまからいただいたご意見などを参考に、1年間の活動成果をわかりやすくお伝えするよう心がけました。同封のアンケート用紙などで、皆さまのご意見・ご感想をお聞かせいただければ幸いです。